

職員による自己評価

A環境面

- ・店舗にエレベーターはないものの、上の階への送迎は車で行き、安全性に配慮している。
- ・適切な活動スペースが提供されている。

B児童への支援内容

- ・学校が休みの時は、体を動かす時間を作り体力が低下しない工夫がされている。
- ・プログラムは、アセスメントや個別支援計画の結果に基づいて立案している。また、フロアリーダー他、多数の職員が立案時から関わっている。

C保護者との連携

- ・年2回と必要に応じて、保護者の方と面談をする等、今後の方向性について話し合っている

D保護者への説明責任・信頼関係

- ・送迎時や保護者がいつでも児童の活動や個別支援計画等を確認できる運営アプリを通して情報共有している。

E非常対応

- ・虐待防止研修やAED研修、災害時避難訓練等を毎月実施している。

保護者による評価

A環境面

- ・十分な活動スペースの確保ができています。
- ・車での送迎時に、添乗員の人数に不安を感じることがある。
- ・見学時に見ただけなので、あまり記憶にない

B児童への支援内容

- ・楽しく学べるプログラムがあり、子供が楽しみにしている。
- ・現在、地域の児童との交流はないが、コロナもあり難しいとの意見が多数あり。

C事業所からの情報発信

- ・児童への支援内容は適切であるとの回答が複数あり。(例)児童の状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせている。活動プログラムが固定化しないように工夫されている。

D非常対応

- ・避難訓練が毎月予定されている。
- ・子供が避難訓練に参加したことがない。
- ・緊急時の対応等が不明。

事業所内での分析

【共通点】

- ・適切な活動スペースが確保されている。
- ・個々の特性を理解し、個別に対応している。
- ・屋外、屋内ともに活動プログラムが充実している。

【相違点】

- ・緊急時の対応フローは策定済。
- ・毎月、避難訓練を実施しているが、訓練に参加できていない児童がいる。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・児童の特性や個性に合わせた、豊富な種類の活動を提供できている。
- ・土曜、祝日等は、可能な限り野外活動を行うことで、体力の維持向上に努め、集団行動を学んでいる。
- ・毎日、各フロアの状況を職員間で共有し、児童に個別に対応できるよう取り組んでいる。

事業所の改善点

- ・職員の更なるスキルアップを目指す。
- ・再度、防災マニュアルや防災対策を発信していく。
- ・保護者に活動の様子を見学してもらう機会を増やしていく。
- ・送迎時の職員の体制を再確認して、危険がないかを事業所内で検討する。

事業所の改善への取り組み

- ・毎月の社内研修や必要に応じた外部研修に参加して、職員の能力向上に努める。
- ・各災害に応じた対策を発信する。
- ・事業所として十分な人員体制という認識でも、改めて危険や問題がないかを検証する。
- ・保護者の方にも、実際の活動を見て確認していただくとともに、保護者同士の交流を増やす機会を作る。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

様々な情報を、適宜発信していくことが一層の信頼関係を築くことになると感じました。今後は、より一層安全に安心して過ごせる場所を提供することが重要だと考えます。

事業所名 もみじのて KIDS 鶴見

担当者 澤村 栄治